

「三田評論」2003年10月号114-115ページ

「総合政策学の最先端」全四巻を一挙に刊行

岡部光明

(慶應義塾大学総合政策学部教授)

総合政策学とはどんな学問ですか。従来の社会科学とどう異なるのですか。なぜそのような視点が必要なのですか。慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(略称SFC)における大学教育の様々な試みは、確かに日本の他大学に大きな影響を与えたと評価されていますが、果たして研究面では総合政策学部としてどんな成果が出ているのですか。

これらの質問はこれまで繰り返しSFCに対して問いかけてきたものです。それに対する一つの回答として、SFCはこのたび「総合政策学の最先端」という全四巻からなる書物を一挙に刊行しました(出版社は慶應義塾大学出版会)。

総合政策学の考え方は、その第一巻の冒頭にやや詳しく記載しましたが、一言でいえば、情報通信技術(IT)の革新に代表されるような人間社会の大変化を強く意識するとともに、そうした状況下で個人や各種組織の間における関係あるいは公共政策などをガバナンスという視点からとらえることを基礎としたものといえます。このため、それが対象とする領域は自ずと多面的であり、このため今回のシリーズは合計六〇編の論文から成り立っています。

まず第一巻は、副題「市場・リスク・持続可能性」が示唆するような諸問題、つまりIT革新、取引グローバル化による市場メカニズムの変化、社会や個人が直面する各種リスクの評価、少子・高齢化、エネルギー制約、環境保全といった大きな条件変化と政策課題、などを論じています。第二巻は「インターネット社会・組織革新・SFC教育」を扱っています。つまり、上記の与件変化が企業や民間非営利組織の行動や戦略をどう変えつつあるか、あるいは変えるべきかを様々な角度から取り上げています。ここでは、非営利組織の一つである大学も採り上げており、SFCにおける教育面での新しい試みの紹介も含まれています。第三巻は「多様化・紛争・統合」をテーマとしており、日本を含む世界の幾つかの国ないし地域における言語、文化、政治等の側面に切り込んでいます。一方、第四巻は「新世代研究者による挑戦」を副題としており、ここでは特定テーマの論文を集録するのではなく、SFCという研究環境の中で育った若手研究者(具体的にはSFC大学院の政策・メディア研究科で博士号を取得した研究者あるいはそれに準じる研究者)自体に着目し、彼らが行っている最先端の研究を集録しています。第四巻に集められた論文は、いずれも一巻～三巻の論文以

上に学際的なテーマの研究、ないし先端的な手法による研究であることが特徴的です。

以上からわかっていただけるように、本シリーズは全四巻を通して幾つかのメッセージを伝達することを意図しています。第一は、総合政策学という一つの新しい研究視点とその成果を具体的に示すことです。第二は、そうした新しい研究分野を開拓する場合の大学における研究および教育のあり方として、SFCのケースを多面的そして具体的に示すことです。そして第三に、大学における教育と研究は不可分一体のものであることを示すことです(ことに第四巻)。確かに、本シリーズに集録された各論文は、テーマの性質、焦点のあて方、分析手法など多くの面で相当に異なる面をもっているのは事実です。また、SFCで活発に行われている教員相互あるいは国内外研究者との共同研究を取りまとめた論文はここには意図して集録していません。しかし、本シリーズは、比喩的にいえば、異なった音色や音量の楽器によって構成されるオーケストラの演奏が一つの大きな交響曲を奏でており、全体としては上記のようなメッセージを伝えるものになっているのではないかとわれわれは期待しています。

文部科学省は昨年「二十一世紀COE(センターオブエクセレンス)プログラム」を創設し、世界最高水準の研究教育拠点を学問分野毎に形成する方針を打ち出しました。SFCは幸いにも既に二つの研究領域でそうした拠点に指定されており、したがって本シリーズの執筆者は、すべて直接的あるいは間接的にこの二つのいずれかの研究プログラムに関係しています。これが示唆するとおり、本書に集録された論文はいずれも先端的な分野を扱うものです。その一方、そうした高度な内容をできるだけ容易に読者に理解してもらえよう、各論文とも文章や図表の面で最大限の工夫を凝らしている点もまた大きな特徴です。具体的にいえば、読者層のレベルとしては大学学部三～四年生ないし大学院初級を想定しています。この点は本シリーズの編集委員会(小島朋之総合政策学部長はじめ六名で構成)が最も努力した点の一つです。

本シリーズは、幸いにも企画開始からおよそ十一か月後に全巻を予定通り上梓できました。これは、論文を執筆していただいたSFC同僚諸氏、あるいはSFC出身の若手研究者の皆様方の全面的なご協力のおかげです。そして、いまひとつには近年の情報通信技術の革新からもまた大きな恩恵を受けました。つまり刊行に関する連絡、折衝、調整などはほとんど全て電子メールによって効率的に進めることができただけでなく、原稿の授受はすべて電磁的な文書ファイルの送受信で行うことが可能であったことによるものです。

学問の最先端を扱う大冊の四巻(合計一四〇〇ページ超)全部が、わずか福澤先生の肖像画(一万円札)一枚と引き換えに書店で入手できます(各巻毎の購入も可能)。これは、安西祐一郎慶應義塾長をはじめ多くの方々のご理解とご支援の賜物です。総合政策学部の学生

諸君はもとより、学問の新しい息吹を感じてみたいという読者諸氏は、ぜひ本シリーズを手
に取って見ていただきたい（できれば全巻を読んでいただきたい）と思います。